

令和
7年度

事業所における自己評価総括表(公表)

COMPASS 発達支援センター守口



○事業所名	COMPASS発達支援センター守口		
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日	～	令和7年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	令和7年9月1日	～	令和7年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	COMPASSでは全国に事業を展開しており、系列事業所との連携があります。 各担当者が会議や勉強会をおこなっており、事例検討なども含めて多様な視点からの意見を取り入れて、計画書や日々の療育に取り入れております。	各担当毎に事業部内で担当グループが形成されており、担当グループ主体での会議や勉強会が実施されています。 複数の地域に事業所があるので、不明な点などは指定権者に確認をし、法令に沿った事業所運営をおこなっております。	児童が楽しみながら通ってくる事業所、成長を感じられる事業所、安心して通ってもらえる事業所を常に考えながら、決められたルールを遵守して取り組んでまいります。
2	保護者・学校との連携強化 学習や生活支援に向け、保護者様や学校と密に連携を取っています。	日常生活スキルの向上 手洗いや片付けなど、基本的な生活スキルを練習する機会を増やしております。	新しい教材・遊具の導入 児童が楽しみながら学べるよう。遊具や教材の充実を図っております。
3	経験豊富なスタッフの配置 特別支援教育や療育経験のある職員を配置し、安心してできる環境作りにも努めています。	個別支援計画の柔軟な運用 定期的にモニタリングを実施し、児童の成長に応じた見直しを行っております。	家族支援の強化 保護者様向けの勉強会や相談会を実施し、家庭での支援にもつなげています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援のスペース確保が難しい 活動の種類が増える中で、十分なスペースが確保できない場合がございます。	施設環境の制約 限られたスペース内で多様な活動を行うことが難しい場合がございます。	スペースの有効活用 設備配置を工夫し、活動ごとに最適な環境を整えるよう努めております。
2	支援対象の年齢層の広がり 低学年から高校生までの幅広い年齢層に対応するため、年齢に応じたプログラムの細分化が求められています。 プログラムの更新が追いつかない支援の多様化に対応するため、新しい教材や活動の導入を継続して行う必要があります。	プログラムの更新が追いつかない 支援の多様化に対応するため、新しい教材や活動の導入を継続して行う必要があります。	プログラムの多様化 外部の専門家や新しい学習・遊びの手法を取り入れ、子どもたちが飽きないよう工夫しています。
3	活動プログラムのマンネリ化 長期的な通所により活動が固定化しやすく、新たな刺激のある支援の提供が必要とされています。	家庭との連携の難しさ 保護者様のご事情により情報共有が十分にできず、支援が一貫しにくい場面があります	家庭との連携強化 保護者様との定期的な面談を増やし、支援方針を共有することで一体的な支援を目指しています。



公表日：令和8年4月8日